

第13回沖縄県教育委員会会議（定例会）

1 日時 平成24年11月21日 15時00分～15時58分

2 場所 教育庁第1会議室

3 出席者

委員	安次嶺 委員（委員長）		（欠席委員）
	中野 委員		
	新垣 委員		
安里 委員			
宮城 委員			
大城 委員（教育長）			
教育 庁	統括監等	教育管理統括監	
	課長及び 班長等	総務課長、財務課長、施設課長、福利課長、 県立学校教育課長、義務教育課副参事、保健体育課長、 生涯学習振興課長、文化財課長	
	職務のため 出席した者	（事務局） 総務課総務班班長、同班主任（2名） 県立学校教育課特別支援教育班主任指導主事 義務教育課人事管理監 生涯学習振興課管理班班長、同班主査	
4 傍聴した者			
記者2人 / その他1人			

平成24年第13回県教育委員会会議（定例会）

（開会15:00）

委員長	ただ今から平成24年第13回県教育委員会会議・定例会を開催します。 はじめに会期の決定を行います。本日1日を予定しておりますが、よろしいでしょうか。
各委員	異議なし。
委員長	このとおり決定します。 次に第12回会議録の承認を行います。中野委員お願いします。
中野委員	正確に記載されております。
委員長	正確に記載されているとのことですので、承認してよろしいでしょうか。
各委員	異議なし。
委員長	このとおり決定します。 今回の会議録署名人は、新垣委員にお願いします。
新垣委員	はい。
委員長	<p>では、議事に入る前に私から2点報告がございます。</p> <p>先ほど、県議会議長にお会いしまして、「平成24年度沖縄県教育委員会の点検評価報告書」をお渡しして参りました。今回の報告書の特徴やこれまでの経緯等をお話して、議長にもしっかりと教育の大切さというものを認識して頂けたと思います。皆さんにも今回の報告書をご確認頂き、来年もより良いものを作成出来るよう、共に頑張りたいと思います。</p> <p>次に2点目ですが、私たち沖縄県教育委員会委員は先日、県外視察として福島県に行って参りました。</p> <p>福島県からは、子ども達が沖縄にもかなり避難しておりますし、色々と子ども達の交流もあります。（震災から）1年以上経っておりますが、私達もぜひ被災地の現状を見たいと思いました。</p> <p>そして訪問先と致しましては、南相馬市の教育委員会と、市立の小学校と中学校、更に福島大学の中に、被災した子ども達の勉強を学生ボランティアが見たりといった活動を、関係者が色々とサポートする「うつくしまふくしま未来支援センター」という組織がございますので、そちらを視察して参りました。</p> <p>とにかく福島は素晴らしい自然も残っておりますし、地域の方々も人間的に素晴らしい方ばかりで、沖縄のおもてなしも到底かなわないと思う程でした。</p> <p>では、視察の感想を新垣委員と、宮城委員に簡単に述べて頂きたいと思い</p>

	<p>ます。よろしくお願ひ致します。</p>
<p>新垣委員</p>	<p>私達教育委員は、10月25日から27日の2泊3日で福島県を訪問したが、テレビで見るのと、自分の足で実際見てみるのとでは大分違っていると感じた。各施設にプロパンのような放射線モニタリングの装置が置かれており驚いた。毎日放射線の中で生活されているのだということを実感した。</p> <p>また、市立原町第一小学校を訪問した時には、除染のために土が入れ替えられていて、運動場が砂場のような状況であった。天気が良くても、環境が晴れていないような感じを受けた。</p> <p>私が一番関心したのは、震災と関係なく子ども達が元気で、掃除に熱心に取り組んでいたことである。視察した小学校では、各家庭で膝あてを作つて、掃除を徹底してやるということが伝統になっているようであった。</p> <p>子ども達に掃除をさせるために、親が膝あてを作るというのは、親御さんの学校をキレイにしようという掃除に対する思いが伝わってきて、すごいと感じた。</p> <p>そして、給食の食材に対しても、校内の空き教室で、一品ずつ検査を行っていた。その日に使う食材について、放射線の検査を行っており、日本一安全、安心な給食を与えているのではないかという感じで、ここまでやるのかと思うぐらい徹底されていた。</p> <p>視察した中学校では、運動場が広く、小学校3校分の仮設校舎が建てられていた。一階と二階とで異なる小学校が仮設校舎内に併設されていたことに驚いた。</p> <p>小学校、中学校に共通して、子ども達の挨拶がとても上手だった。沖縄県からの視察だと伝えると「わざわざ遠い沖縄からですか、ご苦労様です。」と子ども達から言われて、ハッとした。色々な方が視察等で見えるので、そのように挨拶するように指導されているのかは分からないが、子ども達の大人に対する対応がとても素晴らしかった、その対応が自然体で出てきたというところもすごいと感じた。</p> <p>南相馬市の海岸沿いは無残な状況だったけれども、子ども達の笑顔を見ると、どのような事があっても子ども達の笑顔は消してはいけなひと感じた。子どもはどんな事があっても明るく、楽しく日々を過ごしていける、それは周りの地域の方々の努力や、日本全国から支援があったからなのではないかと感じた。</p> <p>福島県を視察してみて、子ども達の良さだったり、その地域の良さを見られた他に、色々な話を聞くことが出来て、次に私達がどのような支援策をと</p>

	らなければいけないのかが分かった。視察に行くととても良かった。
委員長	<p>補足致します。南相馬市教育委員会訪問についてですが、市役所が本当にコンパクトで、その中に教育委員会がございました。そこで青木教育長にお会いしまして、「随分、沖縄県に福島の子供たちがお世話になりました」という御礼の言葉を頂きました。</p> <p>それでは、続いて宮城委員より福島大学の「うつくしまふくしま未来支援センター」を中心に感想をお願い致します。</p>
宮城委員	<p>福島大学は福島市から電車で2駅の場所にあり、南相馬市と較べると震災の被害はあまり大きくないところであった。福島大学の最初の印象は、ゴミがなく、大学構内がとてもキレイだということであり、福島県民の県民性なのかと感じた。</p> <p>私たちは、福島大学内に設置されている「うつくしまふくしま未来支援センター」を訪問した。土曜日に開かれている「土曜子どもキャンパス」に合わせて訪問したが、被災地域の小・中学生に対して、大学生ボランティアが主体となって、勉強を見たり遊んであげている様子を見学した。楽しそうに座って宿題をしている子もいれば、落ち着きのない子どももいた。</p> <p>3月11日に震災が発生したが、支援センターの設立が決定したのがその一ヶ月後の4月13日であり、とても立ち上げが早かったようである。担当の先生がおっしゃるには、当初は、子ども達には落ち着きがなく、暴れたり、精神的に不安定な様子も見られたようだが、私達が視察した時には、一年経過したこともあってか、落ち着きを取り戻している印象を受けた。</p> <p>センターの取組み内容の素晴らしさや、学生が主体となってボランティアをしている所を視察できて良かった。</p> <p>福島大学の入学生について、県外からの学生は減少しているようだが、福島県内からの入学生は、ボランティアに携わりたいという理由から増加しているようであった。</p> <p>このような（自発的に取り組むボランティアの）経験は学生にとって大きな財産になっており、就職実績にも繋がっているという報告も印象に残っている。</p>
委員長	<p>福島の一部しか見ておりませんが、子ども達は元気で、日々真剣に生活を営んでおられると感じました。付け加えますと、福島は本当に自然豊かなところで、山に囲まれ、紅葉がきれいで、果物も豊富で本当に素晴らしいところだと思いました。</p> <p>私達は、福島県から避難してきた子ども達を通して福島と繋がったわけで</p>

	<p>すが、福島に赴き、実際に教育に携わっている方と意見を交換することが出来て、大変意義ある視察だったと思います。以上ご報告致します。</p> <p>では、教育長報告に入ります。報告1について説明をお願いします。</p>
教育長	<p>(教育長報告1の説明)</p> <p>・那覇特別支援学校分教室について</p>
委員長	御質疑ございますか。
中野委員	分教室に任用された養護教諭と事務補佐員はそれぞれ何名か。
県立課長	各1名でございます。
中野委員	その人数で十分に足りていると考えてよいか。
県立課長	はい。
新垣委員	移転したばかりで、分からないこともあるかと思うが、運営していく中で問題が出てきた場合は、きちんと対応して頂きたい。
委員長	分教室は、赤十字病院の建物内にありますが、全ての部屋を使用するわけではなく、その一部を使用しております。病棟の方は少し窮屈で使い勝手が悪いという声もありますが、約一年の間、無事故で頑張っていたと思います。看護部長や、医師とも直接お話ししましたが、皆さん慣れない中で一生懸命やっておられるようです。
委員長	<p>他にございませんか。</p> <p>(しばし間があり)</p> <p>それでは、報告2について説明をお願いします。</p>
教育長	<p>(教育長報告2の説明)</p> <p>・平成25年度沖縄県公立学校教員候補者選考試験最終合格者について</p>
委員長	<p>受験者の方々は、大変な関門を通過して先生として教壇に立たれるわけですね。何回も受験される方もいらっしゃると思うので、合格者の年齢も少しずつ上がってきているのでしょうか。</p> <p>御質疑ございますか。</p>
中野委員	36歳から45歳までの皆さんが最終的に30名合格しているが、男女比はどのようなになっているのか。
義務教育課副参事	男女比は半々となっております。全体としては男子40%、女子60%の比率となっております。
中野委員	正規教諭と非正規教諭の任用割合が全国でも最悪な状況だったので、問題の解消に向けて、合格者数も年々増加しており良い兆候だと考えているが、正規、非正規の教員の割合を全国平均に引き上げるためには、あと何年かかるのか。

義務教育課 副参事	沖縄県は全国と比較して一割近い差が出ているのですが、この問題を解消するために、これまで280名前後の採用者だったのを、平成23年度より500名前後に採用者を増やしております。それから、ご承知のとおり新規採用者に対しては初任者研修を義務付けておりますけれども、それに対する加配がありまして、採用者数を増やすことによって加配の人数も増えるということがございます。加配の人数は次年度以降は減ることも予想されますので、出来る限り一日も早く問題の解決を目指して参ります。
中野委員	初任者研修との関わりで対応が難しいということもあるが、初任研の在り方を見直しながら採用者を増やす方向へ検討してはどうか。特に沖縄は離島・僻地を抱えているので、ぜひその問題も克服して、一括交付金の活用も視野に入れながら対応して頂きたい。
宮城委員	一次試験、二次試験、三次試験それぞれの内容について教えて頂きたい。
義務教育課 副参事	一次試験のメインは筆記です。通常二次試験は面接、実技を内容としておりますが、体育、音楽、美術等においては三次試験がございます。実技教科である科目については三次試験までであるという風にご理解頂ければと思います。
宮城委員	面接はどのような形式で行うのか。個別か、それともグループ面接か。
義務教育課 副参事	面接は、受験生1名に対し、面接官3名で実施しております。
宮城委員	一次試験、二次試験それぞれの合格者数はどのように決定するのか。
教育長	<p>教職員の採用数は、需要と供給のバランスを勘案するため、教科によっては採用人数に限られる場合があり、受験者が多い場合は当然競争率が高くなります。</p> <p>次年度の各教科における採用人数は、退職者数によって、ほぼ決まって参りますが、勸奨退職をされる場合もありますし、この辺りを平準化しながら、合格者数を決定しております。</p>
宮城委員	友人が東京都の採用試験を受けたのだが、東京都ではグループ討論の様子を試験官が見ているという選考方法を行っているようだ。沖縄の状況はどのようなのか。どこに重点を置いているのか。
教育長	<p>総合力により選考するために、一次試験では筆記試験により知識を問い、二次試験で筆記試験では測れない様々な技能等を見るため、面談や、教科によっては、15分程度の模擬授業を通して選考していくということがございます。</p> <p>沖縄県の場合は（試験内容として）かなり高いレベルであり、難関だと思</p>

	います。
宮城委員	資料の合格者数を見ると、やはりそのように見受けられる。
教育長	沖縄県は全国でも一番競争率が高いのではなかったでしょうか。
義務教育課 副参事	まだ集計は出来ていないのですが、全国でも5本の指に入る程に難関であると言われております。
教育長	<p>沖縄県は、平成23年度から平成24年度にかけて、採用人数が増えております。これは45歳まで年齢制限を引き上げたという制度変更も一つの要因としてございます。今年で2年目を迎えておりますが、3年から5年かけて検証していく中で、様々な課題が出てくるかと思いますので、改善点として取り組んで参りたいと思います。</p> <p>面談の方法についても、個別が良いのか、グループ面談が良いのか等検証して参ります。</p>
宮城委員	東京都の話聞いて、もう少し二次試験に重点を置いてみてはどうかと思った。友人は社会経験を積んで30代半ばで義務教育課程の試験に合格したが、社会で経験したことが学校教育に活かせると思う。同じ試験点数で合格しても、新卒者と社会人を経験した方とでは違うと思うので、経験を積んだ方も採用頂きたい。
教育長	実は、資料の表1下の 印にありますように「一部試験免除」という制度がございます。一部試験免除制度における、社会経験等に関わる部分について所管課から説明願います。
義務教育課 副参事	<p>応募者数の中の括弧書きのところに11名とありますのは、スポーツ、芸術分野において相当の実績がある者については、一次試験を免除されているということでございます。</p> <p>先程の東京都の場合は、1万8千人余の受験生を抱え、23の特別区とのバランスがあるため、沖縄と異なるところもあるのではないかと思います。</p>
宮城委員	わかりました。
委員長	<p>非常に優秀な方々が試験を経てきたわけですが、更に教師としての資質と いいですか、点数的には分からないところもあるかと思いますので、その点をどのように判断していくかですね。</p> <p>採用というのはとても難しいと思います。試験は一番手っ取り早いし、フェアと言えばフェアな訳ですが、それだけでは図れないところもあります。他にございませんか。</p>
新垣委員	これまで沖縄県の教育に貢献した方々、36歳から45歳までの方の採用数が去年から今年増えたのは嬉しい。しかし、今回の試験にもれた方もいっし

	<p>やるだろうし、これからどんどん採用を増やすような対策を講じて頂きたい。新卒採用の子が4月から採用されるとなると、まだ学級経営に慣れなく、人間的にも経験の浅い方がクラス担任になることになる。何年も補充を経験し、学級経営が上手い方がクラス担任になるのとでは違う。私達が人間関係の教育をしようとしているところに、経験不足を認めない子を充てるのか。ただ一度のテストで判断するということを見直す必要もあるのではないか。</p> <p>教育現場が必要としている人材はそういう方ではないのか。やはり人間はペーパーでは図れない部分があるので、何年も（補充として）経験を積まれてる方に何か還元出来ることがあるのではないか。</p> <p>また、面接官について内部と外部のバランスはどのようになっているのか。</p>
義務教育課副参事	面接官には臨床心理士等の専門家を交えております。
新垣委員	外部からも、内部からもバランスよく任用しているということか。
義務教育課副参事	面接官3名のうち、2名は内部からで、もう1名は臨床心理士等の専門家となっております。
委員長	採用にあたっては、試験の点数と面接の点数とを併せて選考するのでしょうか。二つのバランス、面接の比重はどれほどあるのでしょうか。
義務教育課副参事	<p>実技教科や小学校等、ペーパーで行うものと、実技を伴うものとのバランスもございまして、教科によって異なります。先程もありましたように二次試験については面接をし、人物を見ながら、模擬授業で実践的な教育指導力があるのか見極め、選定をするということでございます。</p> <p>臨任職員についてですが、合格者の約73%が臨任経験者になっております。また、臨任職員については法規上、優位に扱ってはならないというような規定もございまして。</p>
委員長	色々採用に苦労していらっしゃるということが分かりました。他にございませんか。
安里委員	私が企業を経営している中で、採用に関して全国的に大きな問題になっているのが、「ゆとり教育」世代の子ども達が学卒として社会に出ても、会社では役に立たないと言われていることである。この間もあるセミナーを受けてきたが、今の新卒者は「育てる」という言葉は当てはまらず、「鍛える」ところからやらないと、本当に我々の常識が通用しない。宇宙人、異星人のような存在であるのが新卒者だと、産業界では盛んに叫ばれている。

	<p>中央と沖縄とでは温度差があるので、沖縄県でもそれが全て当てはまるわけではないと思うが、従来の新卒者と、ゆとり教育の中で育ってきた世代とでは違うのかどうかを分析頂きたい。もし仮に、世代間ギャップのようなものがある場合は、教育の在り方というのも変更していかなければならない。</p> <p>もし子ども達を教える先生方がそのような状況であると、被害を被るのは子ども達なので、そういった傾向がある場合は次年度以降対策を練っていかなければならないと思う。その辺を考慮し、少し長い目で分析頂きたい。</p>
教育長	<p>教員の資質向上につきましては、中央教育審議会（以下、「中教審」）でも色々と議論されております。</p> <p>内容としては、教職員の養成においては大学へ、採用と研修は教育委員会に一任するというような、三つのシステムをいかに構築していくのかという視点から議論されておまして、中教審により、ある程度の方向性が示されました。</p> <p>ですから各都道府県は、中教審の答申を受けて、現在、様々な対応をしていこうという状況でございます。</p> <p>私どもとしましても、先程示しましたように、3年から5年かけて選考制度を検証していこうという方向性を持っていますので、是非その中で議論をさせて頂きたいと思っております。</p>
委員長	<p>恐らく、どの分野でもそのような傾向が出てきていると思います。特に、先生方は、学校現場で次世代を教育をするという、非常に大事な役割を持っておられます。新規学卒者は、学校から出てきた時点では未熟な所が多いわけですから、やはりこちらが採用してからどのように一人前に育てていくかではないでしょうか。研修生のように考えて、しっかりと若い人達を鍛えるというか、質を上げるというところは従来とは異なる点かもしれません。努力していらっしゃるかと思いますが、よろしくお願い致します。</p> <p>他にございませんか。</p> <p>（しばし間があり）</p> <p>それでは、議事に入ります。本日は議案が4件となっています。なお、議案第4号は人事案件となっていますので非公開としたいと思っておりますがよろしいでしょうか。</p>
各委員	異議なし。
委員長	<p>このとおり決定します。</p> <p>それでは、議案第1号の説明をお願いします。</p>
財務課長	（議案第1号の説明）

	<p>・教育委員会の権限事務に係る教育長の臨時代理の承認について (議案「平成24年度沖縄県一般会計補正予算(第4号)」に対する意見)</p>
委員長	<p>御質疑ございますか。 (しばし間があり) では、このとおり決定してよろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
委員長	<p>このとおり決定します。 次の、議案第2号、及び3号は関連致しますので、一括してご説明をお願いします。</p>
学振課長	<p>(議案第2号の説明) ・教育委員会の権限事務に係る教育長の臨時代理の承認について (議案「指定管理者の指定について」に対する意見)について (議案第3号の説明) ・教育委員会の権限事務に係る教育長の臨時代理の承認について (議案「指定管理者の指定について」に対する意見)について</p>
委員長	<p>糸満青少年の家、名護青少年の家の指定管理でございます。 御質疑ございますか。 (しばし間があり) では、このとおり決定してよろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
委員長	<p>このとおり決定します。 休憩します。 (関係者以外退室) (以下は非公開部分のため省略します)</p>